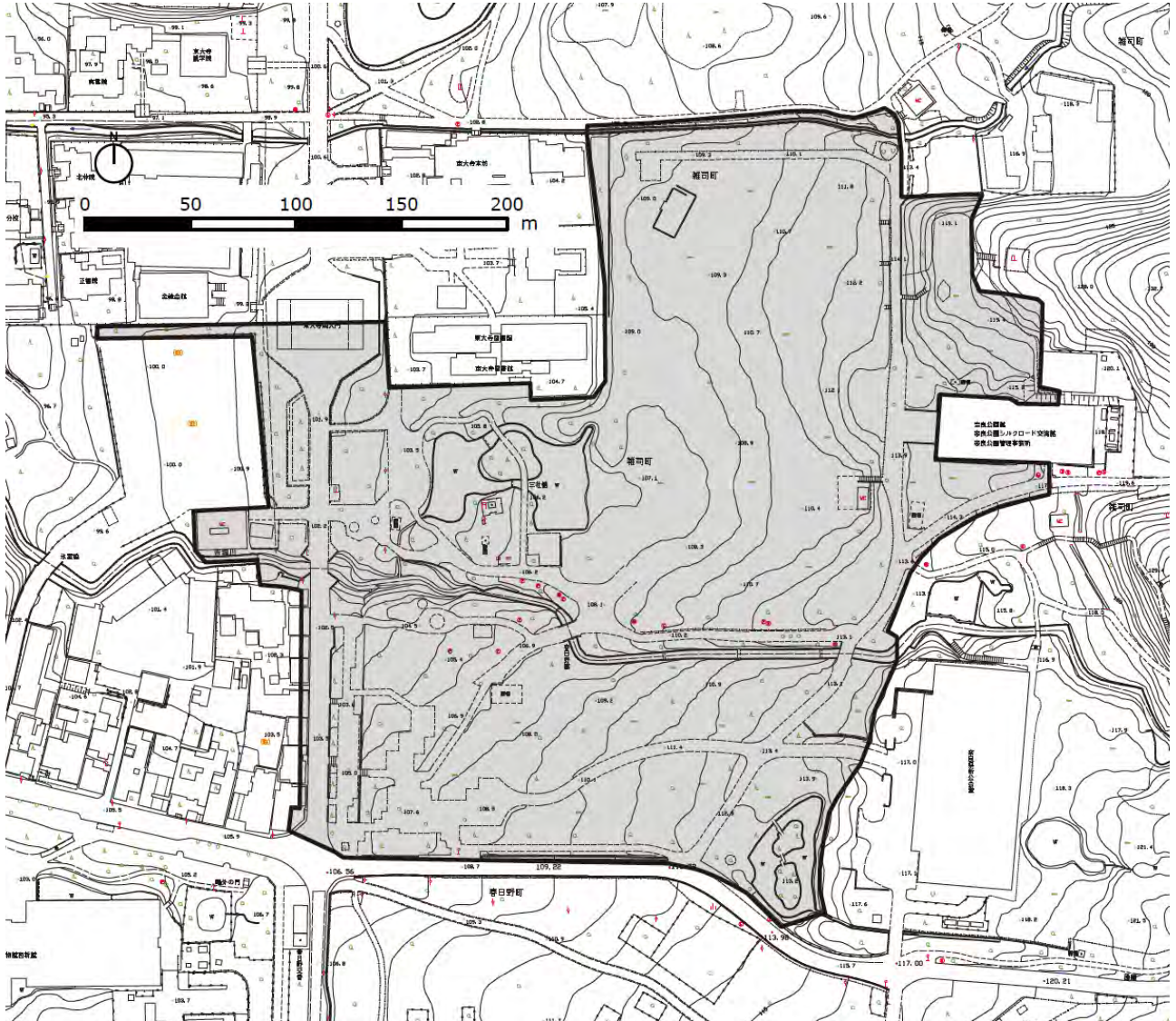


2-2 芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）実施計画

(1) 計画範囲

実施計画の計画範囲は、以下のとおりである。



図：計画範囲

(2) 整備方針

整備方針は、前項に記載した芝地・花木林ゾーン（春日野園地他）植栽計画で設定された計画目標をもとにして、各所毎に評価指標を設定し、これを実現するため必要なものを整備内容とする。

①東大寺本坊外周

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・三社池や春日野園地の背景植栽として保全する。 ・南大門、大仏殿への眺望を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常緑広葉樹優占林 ・常緑・落葉混交林

●整備のための評価指標

- ・南大門、大仏殿の建築上部が望めること。
- ・三社池や春日野園地などから、本坊外周壁が遮蔽されていること。

●整備方針

- ・眺望の阻害となるスギや常緑・落葉広葉樹は択伐する。（※南大門への眺望確保のためには、東大寺本坊の植栽管理と連携する必要がある。）
- ・眺望の阻害となる樹木は、透かし剪定を行う。
- ・視線上に樹木が必要な場合は、視線が抜けるクロマツや樹高が高くない樹種に更新する。



南大門への眺望



大仏殿への眺望

②三社池

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・三社池の庭園植栽を保全・継承する。 ・三社池越しの若草山への眺望を確保する。 	庭園植栽

●整備のための評価指標

- ・庭園と若草山が調和した景観が眺められること。
- ・四季が感じられる配植となっていること。

●整備方針

- ・①東大寺本坊外周と一体的に検討し、眺望の阻害となる常緑・落葉広葉樹を択伐する。
- ・眺望の阻害となる樹木は、透かし剪定を行う。



若草山への眺望（中島付近から）



若草山への眺望（西側護岸から）

③春日野橋北

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・イチョウ、クスノキ、ナンキンハゼの大木を保全する。 ・春日野橋から若草山に向けての眺望を確保する。 	常緑・落葉混交林

●整備のための評価指標

- ・園路を歩きながら若草山の眺望が適度に眺められること。
- ・新緑や紅葉が美しく見える様に適度な密度を維持すること。
- ・ナンキンハゼは、種子散布させない管理ができること。

●整備方針

- ・保全可能なものを除きナンキンハゼは、伐採する。
- ・樹形の崩れた樹木や過密な樹木は伐採する



生長により樹冠が重なり合っている。



強剪定を受けたケヤキ



ナンキンハゼの大木（保全対象）

④大仏前駐車場外周

●計画目標

計画目標	目標植生
・樹高のある高木により駐車場等を遮蔽する。	・常緑広葉樹優占 ・常緑・落葉混交林

●整備のための評価指標

- ・参道から駐車場が遮蔽されていること。

●整備方針

- ・⑤大仏殿参道マツ並木の整備に併せて、補植を行う。



参道と駐車場を遮蔽する常緑広葉樹



吉城川沿いの植栽地

⑤大仏殿参道マツ並木

●計画目標

計画目標	目標植生
・マツ大木の連続性を強調する。 ・原則マツ類のみとし、他樹種は混植しない。	クロマツ疎林(並木等)

●整備のための評価指標

- ・歴史的なマツ並木が連続していること。
- ・マツ以外の樹木が参道景観を乱していないこと。

●整備方針

- ・広葉樹や花木類を伐採又は移植する。
- ・クロマツの補植を行う。



吉城川以南部



吉城川以北部

●目標景観 (大仏殿参道マツ並木)



現在の景観



目標景観

【参考資料】



明治 19 年(1886)

出典：目で見る大和路（昭和 62 年）藤井辰三



絵葉書：南大門 大正 7～昭和 7
(葉書様式より推定)

⑥吉城川沿いかエデ類

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・上下流との連続性に配慮する。 ・イロハモミジを主体にし、紅葉樹を混植する。 	かエデ類

●整備のための評価指標

- ・新緑や紅葉が美しく見える様に、健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・新緑や紅葉の景観に支障となる樹木がないこと。

●整備方針

- ・川沿いの樹形の乱れたサルスベリを伐採する。
- ・川辺のヤシャブシを伐採する。
- ・樹木密度の見直しや土壌改善を行い、モミジ類の生育を改善する。
- ・ケヤキやエノキなどの紅葉樹の補植を行う。



川沿いのサルスベリ



川辺のヤシャブシ



過密なモミジ



紅葉のピーク

⑦浮雲園地西・⑧浮雲園地芝地・⑨大仏前交差点付近

この3つの区域については、既存ナンキンハゼの樹種更新を行うため、長期的な事業として一体的に取り組む必要がある。本計画では、将来的な計画目標を踏まえつつ、当面整備として5～10年間程度を目処とした整備内容を取りまとめるものとする。

●⑦浮雲園地西 計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ疎林と芝地で構成する。 ・計画地全体の景観構成を踏まえ、部分的に花木類を導入する。 ・既存ナンキンハゼは段階的に樹種更新する 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ疎林+花木+ 芝地 ・クロマツ疎林+芝地

●⑧浮雲園地芝地 計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・若草山への眺望景観の保全を重視した植栽とする。 ・点在する樹木はマツ類を主体とする。 	芝地

●⑨大仏前交差点付近 計画目標

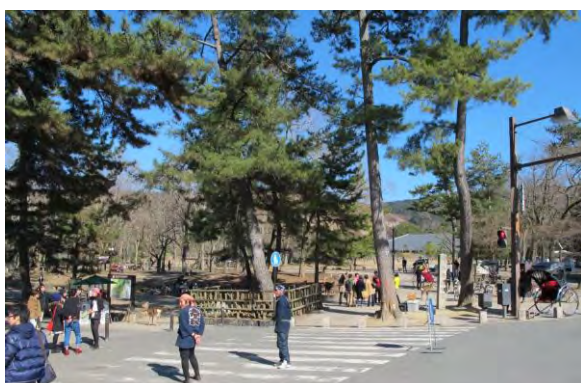
計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツを保全・継承する。 ・既存ナンキンハゼをクロマツに樹種更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ疎林(並木等) ・常緑・落葉混交林

●整備のための評価指標（将来）

- ・眺望点から、若草山と手前の樹林や芝地が調和した景観が眺められること。(a)
- ・大仏殿参道から、マツ並木越しに芝地や若草山、国際フォーラムの屋根が見えること。(b)
- ・大仏殿参道付近から、吉城川沿いや春日野園地、尾根等のサクラが見えること。(c)

●整備のための評価指標（当面）

- ・ナンキンハゼ林の樹林としての魅力や紅葉の魅力を一時的に維持する。
- ・当面整備においても、上記の評価指標（将来）の一部を実現すること。



地点 b から眺望（落葉期）

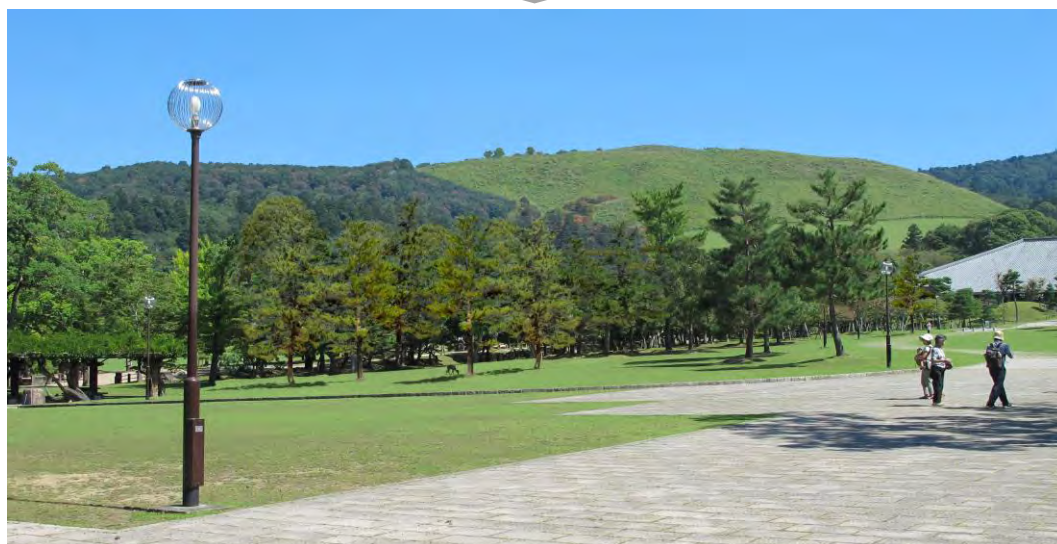


同左（展葉期）

●目標景観（眺望景観A）



現在の景観



目標景観

眺望景観A 景観目標の考え方

- ・若草山への眺望確保の範囲は、大半の樹木が草地下限あたりまでを隠す程度とする。
- ・幾つかの樹木は草地下限を越えても良いが、その高さは稜線を大きく越えない程度とする。
- ・稜線に達するほど生長した樹木は透かし剪定を行い、稜線の連続性を確保する。

⑩白蛇川沿いかエデ類

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・上下流との連続性に配慮する。 ・イロハモミジを主体にし、紅葉樹を混植する。 	かエデ類

●整備のための評価指標

- ・新緑や紅葉が美しく見える様に、健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・新緑や紅葉の景観に支障となる樹木がないこと。
- ・イロハモミジやケヤキなどによって、多彩な色合いの紅葉の景ができていていること。
- ・春日野園地からの大仏殿への眺望（眺望E）を阻害しないこと

●整備方針

- ・ケヤキやエノキ、イロハモミジなどの紅葉樹の補植を行う。
- ・ナンキンハゼを伐採する。



川沿いのイロハモミジ



隣接地のイロハモミジ

⑪春日野園地

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・拡がりのある芝地の外周にサクラ類を配植し、眺望と一体的となる景観を形成する。 ・サクラ類はソメイヨシノやヤマザクラなど4月上旬に開花する樹種・品種とする。 ・土壌改善により、サクラ類の健全な生育を図る。 	サクラ類 + 芝地

●整備のための評価指標

- ・サクラ類が健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・眺望景観に映える芝地と見応えのあるサクラの開花が楽しめること。
- ・南大門、大仏殿、若草山などへの眺望が十分に楽しめること。
- ・⑫国際フォーラム別館北と一体となって、「広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景」ができていていること。

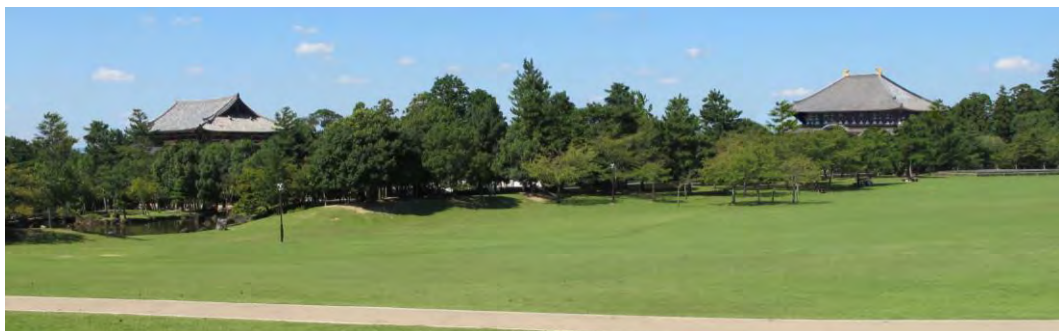
●整備方針

- ・ナンキンハゼや眺望を阻害するスギ、クスノキなどを択伐する。（※大仏殿への眺望確保のためには鏡池東のスギ並木の植栽管理と連携する必要がある。）
- ・土壌改善を行い、サクラ類の生育を改善する。
- ・サクラ類は4月上旬に開花する樹種・品種に植替える。

●目標景観（眺望景観E）



現在の景観



目標景観

眺望景観E 景観目標の考え方

- ・大仏殿及び南大門への眺望確保の範囲は、下屋の最上部あたりまでを隠す程度とする。
- ・樹木生長により軒が隠れ始めた場合には、伐採や剪定を行い、眺望を回復する。
- ・軒に達するほど生長したマツは透かし剪定を行い、眺望を確保する。

●目標景観（眺望景観E）サクラ開花時



現在の景観（2014年3月31日撮影）



目標景観 ※背景は夏の景観

⑫国際フォーラム別館北

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・ランドマークとなるイチヨウを保全・継承する。 ・サクラ見本園として多様な樹種、品種を配植する。 	クロマツ疎林+花木+芝地

●整備のための評価指標

- ・⑪春日野園地と一体となって「広大な眺望景観の中に何層ものサクラを重ねて、奥行き感のある景」ができていていること
- ・⑪春日野園地と連続して芝地景観を形成していること。
- ・サクラ類の見本園として、観賞できること。

●整備方針

- ・⑪春日野園地にあわせて、4月上旬に開花するサクラ類を補植する。
- ・サクラ類の見本園としてサクラ類の補植を行う。



多様な品種のサクラ

⑬国際フォーラム別館南

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・若草山への導入部としてサクラ類と芝地で構成する。 ・サクラ類は、ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラを保全・継承する。 	クロマツ疎林+花木+芝地

●整備のための評価指標

- ・サクラ（ナラノヤエザクラ、ナラノココノエザクラ）と芝地の景観を形成していること
- ・周辺植栽と調和していること。

●整備方針

- ・点在する仕立物のマツ類の配植を再検討する。

⑭国際フォーラムエントランス・⑮国際フォーラム前庭園

●計画目標

計画目標	目標植生
<ul style="list-style-type: none"> ・国際フォーラムのアプローチ演出に配慮する。 ・サルスベリの植替や再配置を行い、調和のとれた植栽景観とする。 ・仕立物のマツは周辺植栽との調和に配慮し、仕立て方や配植を見直す ・隣接する国際フォーラム庭園との一体性・連続性に配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クロマツ+サルスベリ ・サルスベリ ・庭園植栽

●整備のための評価指標

- ・サルスベリが、健全な生育と適度な密度を保持していること。
- ・クロマツとサルスベリが、国際フォーラムや背山の植栽と調和していること。
- ・国際フォーラムのアプローチとしての演出が適切であること。

(現状の課題)

- ・サルスベリは病害樹木が多く、樹形が極端に崩れている。
- ・サルスベリの密度が高すぎるため不自然である。
- ・サルスベリの配植範囲が広範すぎるため、植栽の演出効果が損なわれている。
- ・仕立物のマツ類と自然樹形のマツが景観の中に混在し、不自然である。
- ・仕立物のマツ類の配植に庭園的な演出が感じられない。

●整備方針

- ・サルスベリは、植え替えを前提として、アプローチの演出効果の高い箇所限定して配植し、「自然風樹形」で仕立てる。
- ・仕立物のマツ類は、周辺の自然樹形のマツと調和する「野木仕立て」に転換し、植栽密度を下げる方針で配植を見直す。
- ・仕立物のマツ類の配植見直しにあたっては、隣接する国際フォーラムの庭園への移植を検討する。



樹形の崩れたサルスベリ



仕立物のマツ類



「自然風樹形のサルスベリ」(京都府立植物園)

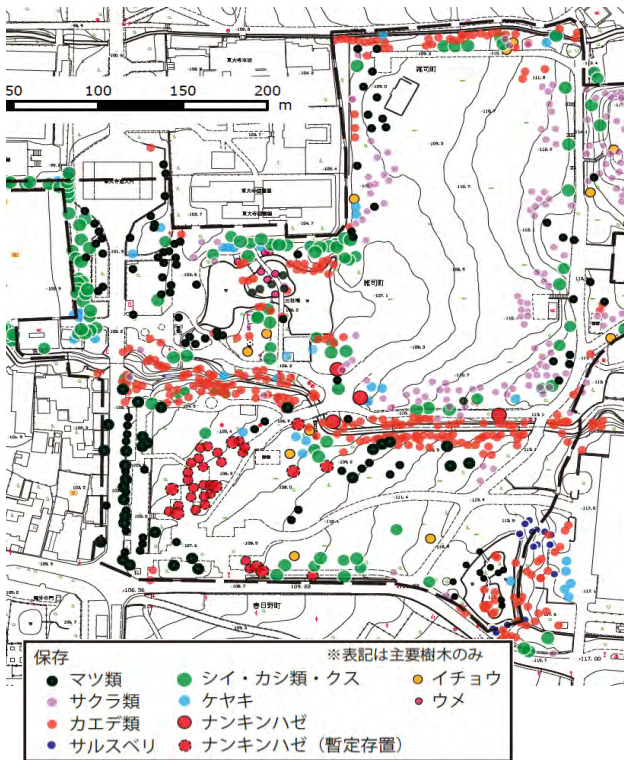


「野木仕立のマツ類」(育成過程・徳川園)

(3) 整備概要

前項の整備方針を受けて、当面整備の内容を①保存樹木、②伐採候補樹木、③補植樹木、④再配植検討樹木に区分して整理する。

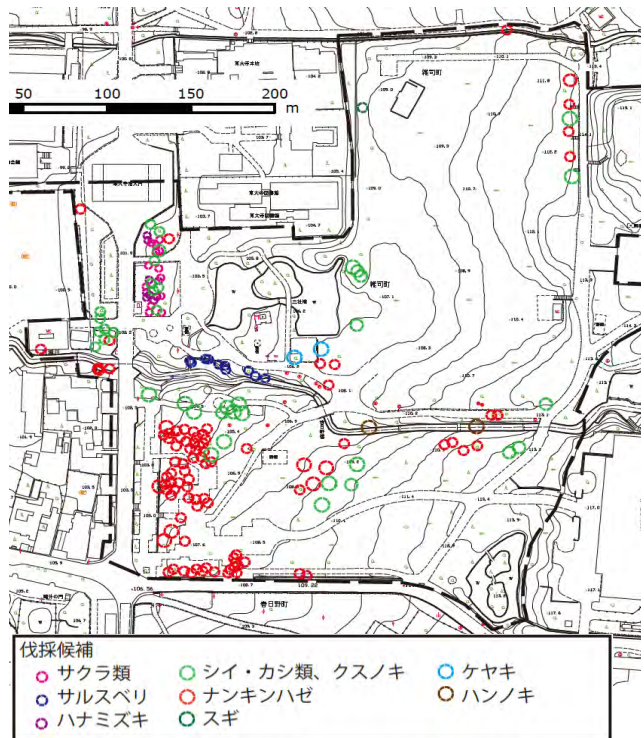
	高木本数(概数)
現況樹木	1, 434
①保存樹木	1, 116
②伐採候補樹木	157
③補植樹木	215
④再配植検討樹木	161



図：保存樹木

①保存樹木 (概数)

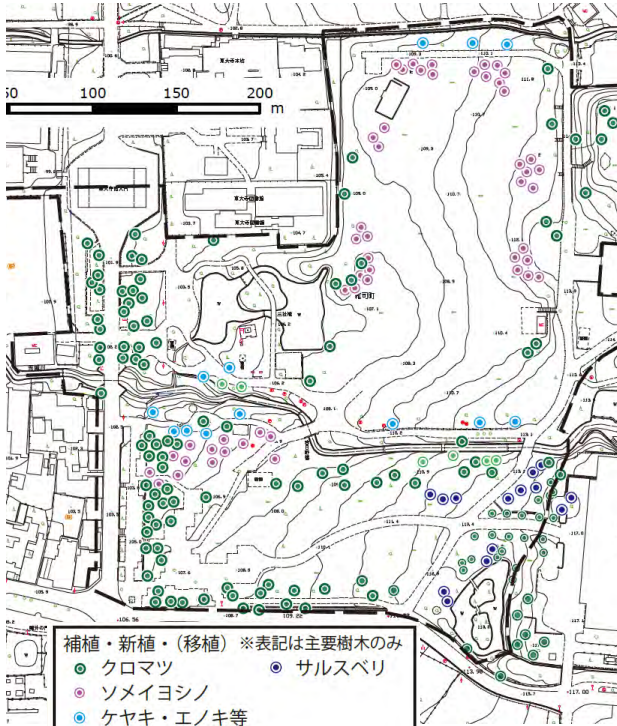
マツ類	153本
サクラ類	183本
カエデ類	304本
シイ・カシ類、クスノキ	146本
ナンキンハゼ (暫定存置含)	58本
ケヤキ他ニレ類	41本
サルスベリ	21本
スギ	15本
イチョウ	13本
その他	182本
計	1116本



図：伐採候補樹木

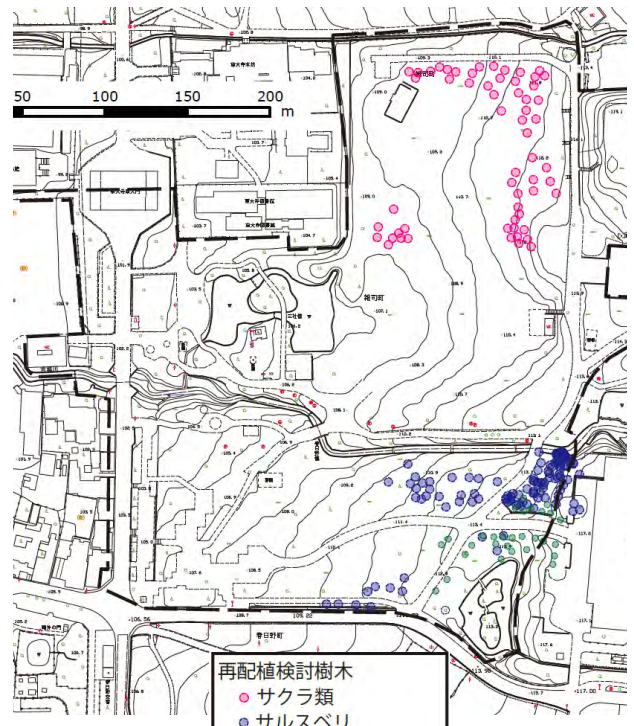
②伐採候補樹木 (概数)

ナンキンハゼ	82本
シイ・カシ類、クスノキ	38本
サクラ類	13本
サルスベリ	10本
ハナミズキ	9本
ケヤキ	2本
ハンノキ	2本
スギ	1本
計	157本



補植・新植・(移植) ※表記は主要樹木のみ
 ● クロマツ ● サルスベリ
 ● ソメイヨシノ
 ● ケヤキ・エノキ等
 ● アラカシ・ツバキ等

図：補植樹木 ※再配置に伴う補植含む



再配植検討樹木
 ● サクラ類
 ● サルスベリ
 ● クロマツ

図：再配植候補樹木

③補植樹木(概数)

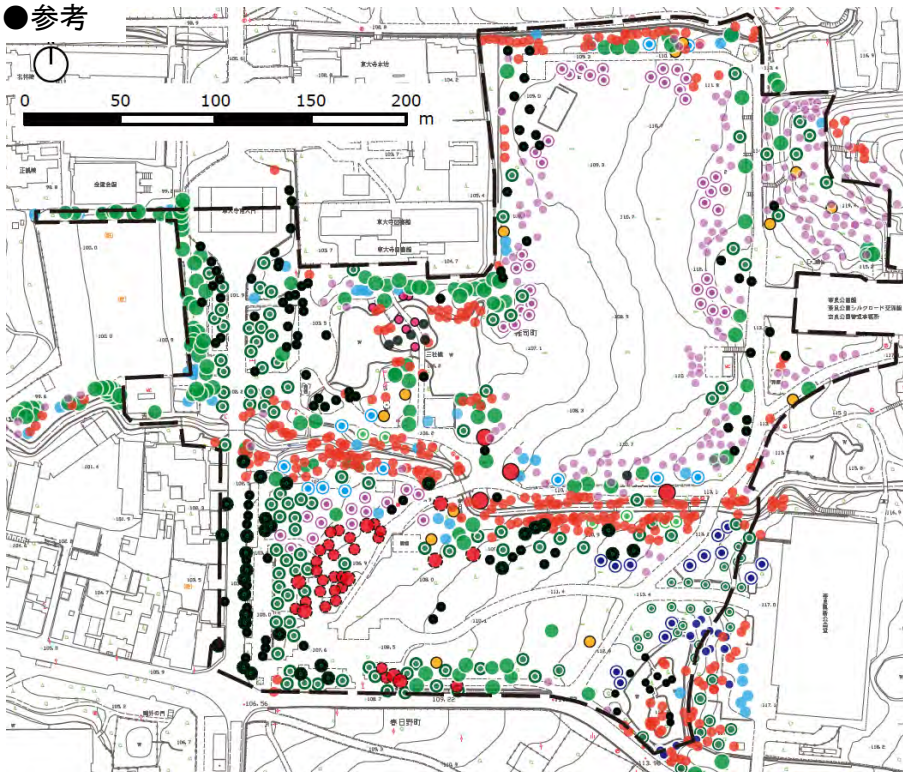
クロマツ	132 本
サクラ類 (ソメイヨシノ)	51 本
サルスベリ	14 本
ケヤキ・エノキ	12 本
アラカシ・ツバキ等	6 本
計	215 本

④再配植検討樹木(概数)

サクラ類	59 本
サルスベリ	73 本
クロマツ (仕立物)	29 本
計	161 本

※再配植検討樹木：再配植検討樹木は、生育不良樹木を多く含む樹木群や、密度調整、位置変更、樹種・品種の変更が必要な樹木群について、樹木群内の樹木をまとめて配植の見直しをおこなうもので、保存、伐採、移植、補植等によって構成される。

●参考



図：保存樹木+補植樹木